

第64回全国大会東北八戸大会「地域再興フォーラム」 全体シナリオ

開始時間	終了時間	所要時間	Program	Script	Scene
12:55	12:56	1	事前アナウンス	<p>【司会】 開会前アナウンス</p> <p>開会 5 分前となりました。ご着席の上、今しばらくお待ちください。</p> <p>本日はご来場頂きまして誠にありがとうございます。開会に先立ちまして、皆様にお願いがござい ます。本日は多くの方がご来場されております。お席 はお一人様一席ずつ詰めてのご着席をお願いいたし ます。また、お席の確保はご遠慮頂きますようお願い いたします。また本フォーラムではWEB アンケ ートを実施します。フォーラム終了後にお手元の次 第に掲載がございますQRコードをスマートフォン から読み取っていただきまして、ご回答へのご協力 をお願いいたします。</p>	
12:59	13:00	1	注意事項	<p>【司会】</p> <p>注意事項です。</p> <p>本フォーラムにおきましては、撮影・録音などの保 存行為は一切禁止となっております。スマートフォ ンなどでの撮影、録音、配信もおやめくださいます ようお願い申し上げます。SNSなどにアップする 場合は、今のうちに完了していただきますようお願い 申し上げます。</p> <p>開演後の携帯電話のご使用は周りの方の迷惑になり ますので、おやめくださいますようお願い申し上げ ます。</p>	
13:00	13:03	3	オープニング映像		
13:03	14:00	57 19 分 × 3 テーマ	トークセッション	<p>(映像終了後、相川氏、木下氏登壇)</p> <p>【相川氏】</p> <p>皆様こんにちは。全国の自治体を中心に取材活動を行 っているフリージャーナリストの相川と申しま す。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>【木下氏】</p> <p>皆様こんにちは。エリア・イノベーションアライア ンス代表理事の木下と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>【相川氏】</p>	テーマ1

早速トークセッションを始めていきましょう。まず1つ目のテーマとしまして「地域を経営することの重要性とは」についてです。本年度、日本ＪＣさんも地域経営についてガイドラインを作成し、地域の問題点を財政面から浮き彫りにしながらヒト・モノ・カネをどのようにして生み出していくのかについて全国各地のＪＣさんと共に取り組んできた聞いております。木下さんが考える地域経営の重要性とはどんなものでしょうか。

【木下氏】

まちの再生に必要なのは経済だと考えます。ご存知のとおり政府は「地方創生」を重要な政策課題の一つとして掲げています。この流れを反映して政府も自治体もまちづくりに関する補助金のメニューをこれまで以上に充実させています。一見すると有難い政策のように思われるかもしれませんが、実はまったく逆で百害あって一利なしです。補助金は麻薬のようなものなので、一度打ってしまうともうそれなしでは生きられない「廃人」になりかねません。税金はそもそも最初から事業性のない社会制度の為にあります。うまく立ち回っても一時的に潤うだけで地域全体の活性化には全く結びつかないのです。しかし多くの人が「補助金をもらったほうが得だ」と判断し、補助金メニューに沿った事業ばかりに取り組むようになる。そのうち地域活性化について自発的に考える力そのものを失い、いわば「補助金依存の悪循環」に陥るわけです。そこで考えなければならぬのが「まち全体を見据えて、いかに稼ぐか」ということです。縮小する社会環境にどう対応して稼ぐか。私がアメリカ留学時代に学んだ最大のことは、まちづくりは官主導ではなく民間主導、特に不動産オーナーを基本に据えているということです。不動産オーナーは誰もが積極的に地域に投資しています。なぜならば「自分の資産価値を高めるため」だからです。「誰が得をするのか」「得をする為に地域に投資をするんだ」という視点でまちづくりを考えたことがなかった私はかなりの衝撃をうけました。考えてみればあたりまえのことです。建物やそ

の地域を少しでも魅力的に見せて内外から招く、それは限りある資源を有効に活用して成果を最大化する「経営」そのものではないでしょうか。

【相川氏】

そうですね。木下さんが言われるよう、行政が税金の再配分で補填する「補助金」によって再生するのではなく、民間が「経済」によって再生することが大切で、「まち全体を見据えて、いかに稼ぐか」が重要なテーマですね。私の考える地域経営とはこれまでの日本にあった「国土の均衡ある発展」に伴った国の画一的な政策やお金に頼ることなく、自治意識を持ち、自らの地域を活性化しようと自力で奮闘しているかどうかだと思います。私の考える自律度を測る指標として自治体の財政自律度というものがあります。これは全市町村の財政運営の手堅さを探ったもので、全市町村の2012年度決算の数値を活用したものです。私はこの財政指標の中かから、3つに注目しました。一つ目は経常収支比率です。これは人件費や扶助費といった義務的な経費に地方税や交付税といった一般財源がどの程度費やされているかを示す指標です。これからわかるのは数値が高いほど財政構造が硬直化しているということが分かります。次に実質公債費比率です。標準財政規模に対する借金返済額の比率で、こちらは数値が高いほど財政がひっ迫していることが分かります。最後に将来負担比率です。これは将来自治体が負担すべき実質的な負債の比率を示したものです。こちらで財政状況が悪い市町村ほど高数値となっています。これら3つの財政指標値ごとに各市町村の偏差値を弾き出し、それらの合計値を総合成績として数値化すると合計値の少ないところほど手堅い財政運営をしている自律度の高い自治体で合計値が高いところほど自律度が低く、困窮している自治体ということが分かります。また、別の視点で住民一人当たりの借金残高というものがあります。これは地方債残高を住民人口で割り、数値化したものです。こちらの数値はストレートな数値で各自自治体の借金を返すのは基本的に住民だということと分かりやすいのではないでし

			<p>ようか。そしてもう一つ、住民の自治意識にスポットを当てた税の納付率です。地方税の納付状況を見することで、住民の自治意識の一端が垣間見えます。義務を果たさない住民の存在は自治の根幹に関わります。そして最後に自治体選挙における投票率です。住民が自らの権利を行使しているかどうかで自治意識の濃淡が見えてきます。以上の数値を総合的に判断し、上位にランキングされる自治体は住民自治意識が高く、自律度の高い自治体で、下位にランキングされる自治体ほど依存度が高く、自立できていない自治体ということになるのではないのでしょうか。</p> <p>続きまして、2つ目のテーマとしまして「独自性を活かした戦略による市民先導のまちづくり」です。日本J Cさんでは、独自性を生かした地域の戦略として、域内消費を向上させる滞在型観光に焦点を当て、滞在型観光業パッケージを新たに作り、全国各地のJ Cとともに取り組んでいると伺っています。木下さんが考える「独自性を生かした戦略による市民先導のまちづくり」とはいかかなものなのでしょうか。</p> <p>【木下氏】</p> <p>民間がいつまでも国や自治体の資金で、何のリターンもない取り組みを「まちづくり」などと称してやり続ける限りその地域は活性化しません。「民」が小さくてもしっかりと利益を出す事業を立ち上げ、それを続け、数を増やし、周囲に波及されていく。何かにつけて資源不足の今にあってはこのような積み上げ方の取り組みをするのが一番確実です。私が考える公民連携は発想を逆転し、「いかに行政からお金を引っ張るか」ではなく、「いかに行政にお金を支払えるか」という視点に立って、稼ぎ出す仕組みをつくるということです。いわば「自立した民」が必要で、縮小する社会でも「官」と「民」で共に「公共」を守っていくという新たな構想を持っています。</p> <p>また、取り組みの中に希少性のあるものを織り込んでいくことも重要です。例えば、岩手県紫波町は補助金に頼らない公民連携で地域活性化を進めた「オ</p>	<p>テーマ2</p>
--	--	--	--	-------------

「ガールプロジェクト」では、駅前の町有地１０．７ヘクタールを中心に、ホテルやバレーボール専用体育館、図書館、カフェ、産直マルシェなどが入居する施設を相次いでオープンしました。年間８０万人が訪れるようになっていて、オープンした時から、オガールプラザの入居率は１００％。しかも、民間テナントはほぼ県内事業者が占めています。

また、兵庫県の城崎温泉のように、「共存共栄」と呼ばれるまちづくりもあります。入浴のため外湯に出かけた宿泊客が、その道すがら、土産を求め、遊技に興じ、小腹を癒す。お店や施設が有機的に結合しながらも、それぞれの役割を分担し、民家を含めたあらゆる業種が渾然一体となって、伝統ある温泉街を常に活性化してきたという例もあります。これらは民間が独自性のある手法で利益を生み出す仕組みを作り出した成功例といえるでしょう。

またここ八戸市においては下水道の汚泥から発生するメタンガスと太陽光や風力の自然エネルギーを組み合わせた発電によって電力供給するシステム「八戸市 水の流れを電気で返すプロジェクト」として、自営線を用いた新エネルギーによる分散型エネルギー供給システムを、世界的にも初めて構築し、まちづくりに活かしています。こちらは官民一体となった成功事例ではありますが、あくまで官が主体では自立したシステムは構築できません。

【相川氏】

民間が主体となって、地域独自の希少性のある事業、そしてしっかりと利益を出す事業をつくっていくことが重要であるということです。

高い財政力を誇る自治体が必ずしも自立しているとは限りません。自治体の税収の豊富さと自律度や住民生活の豊かさはイコールではないからです。潤沢な税収が住民自らの切磋琢磨でなく、無関係に生み出されているものであれば、自律しているとは言えないのではないのでしょうか。私はこのような自分たち以外の大きな存在（他力）に頼り切る修正が染みついていて自治体の状況を「タリキノミクス」、その住民を「タリキスト」と表現しています。また逆に

			<p>何かに頼らず、自分たちの力で努力を重ねる自治体の状況を「ジリキノミクス」、その住民を「ジリキスト」と表現しています。「タリキノミクス」の例を4つのタイプに分けてご説明します。一つ目は巨額の税収をもたらすものに頼り切っている自治体、二つ目は恵まれた諸条件や蓄積してきた富を食いつぶしている自治体、三つめは旧炭鉱地や過疎地域にみられる地域産業の崩壊や条件不利な環境を理由に国の支援策に頼り切っている自治体、四つ目は国の打ち出す政策に忠実に従う中央官庁の言いなりとなっている自治体があります。逆に「ジリキノミクス」では3つのタイプに分かれます。一つ目は「崖っぷち型」です。これは財政破たんなどの絶体絶命のピンチから、自力で事態を切り拓くしかないところまで追い詰められた自治体。二つ目は「退路断ち切り型」です。これは前向きな理由から自ら自力の道を選択した自治体。そして三つめが「伝統・風土型」です。もともと自治の精神が根付いており、地域の特性や独自性を大事にする自治体である。「ジリキノミクス」の自治体について具体例を挙げて説明します。</p> <p>一つ目の「崖っぷち型」は福島県泉崎村、北海道夕張市、大阪府泉佐野市、鳥取県日野町</p> <p>二つ目の「退路断ち切り型」は福島県矢祭町、鳥取県智頭町、長野県下簗村</p> <p>三つ目の「伝統・風土型」は神奈川県秦野市、島根県雲南市、山形県鶴岡市、千葉県印西市、愛知県岡崎市、徳島県神山町</p> <p>衰退した地域でよく出会うのが地元の厳しい環境や状況を嘆いたり、行政の無能さをあげつらってばかりいる人がいます。そうした住民の後ろ向きな姿勢こそが地域の勢いを失わせている要因の一つとなっている。「できない理由よりできる方法を」「とにかく始めろ」と住民自らが「ジリキスト」として意識を変えることが地域活性化の第一歩ではないでしょうか。</p> <p>最後に3つ目のテーマとして「真の地域の自立自活とは」です。今年日本J Cさんでは地域再興政策コンテストというものを開催し、真の地域の自立自活</p>	<p>テーマ3</p>
--	--	--	---	-------------

			<p>に向けた政策について取り組まれていました。136の政策が集まったと聞いています。私も7月に開催されたサマーコンファレンスに参加させていただいて全国各地のJCさんから集まった政策の意識の高さに驚かされました。皆様のお手元にある次第に「地域再興政策コンテスト」QRコードが掲載されています。応募のあった136の政策全てを見ることができます。なかなか興味深いものがありますので、ご覧になるとよろしいかと思います。私も既に見させていただいておりますが、136の政策を層別していくと「広域観光」「少子高齢化」「社会貢献ビジネス」についての政策が地域にとって今後取り組む必要のある政策だと浮彫になっています。「広域観光」では、〇〇青年会議所の取り組みが秀逸であり、〇〇というポイントで非常に斬新でありました。「少子高齢化」〇〇青年会議所の取り組みが秀逸であり、〇〇というポイントで非常に斬新でありました。「社会貢献ビジネス」〇〇青年会議所の取り組みが秀逸であり、〇〇というポイントで非常に斬新でありました。このように行政任せにせず民間からどんな政策を打ち出していくことが重要かと思います。木下さんが考える、真の地域の自立自活について聞かせてください。</p> <p>【木下氏】</p> <p>行政と民間は緊張感のある連携をする必要があると思います。</p> <p>従来のように行政の出す「成功事例集」に紹介してもらうのを待ってはいけません。地域活性化という業界では現場の実践者が知の最先端です。民間こそ自ら実践し、それを体系化し、政策提言をし、取り組みの中でさらに実証し、その全てのプロセスを他の地域へ伝えていく必要があります。制度やルールの変更や新設も小さな事業を積み上げていき、修正すべきことは修正し、懸念を解消しながら前に進めていけば制度変化にもつながっていくのです。これからの時代は「民間には高い公共意識」「行政には高い経営意識」です。この意識が一人ひとりに備わった時、いかなる課題も解決できる素晴らしい</p>	<p>政策紹介 (QRコード)</p> <p>政策パターン層別</p> <p>パターン別政策紹介</p>
--	--	--	---	--

			<p>チームが地域に生まれることでしょう。それこそが「真の地域の自立自活」ではないでしょうか。</p> <p>民間が自ら実践し、それを体系化し、政策提言をし、取り組みの中でさらに実証し、その全てのプロセスを他の地域へ伝えていくことが継続して出来るようになることこそが「真の地域の自立自活」であると言えましょう。その点日本ＪＣさんが行った地域再興政策コンテストには応募されたＪＣさん、されていないＪＣさん、もちろんＪＣ関係者以外の皆さん、全ての方に今一度考えていただきたいですね。一步を踏み出して考え応募した政策を一過性のものとすることなく、これを契機に今後政策立案にまで発展させていくべきですね。</p> <p>次第に掲載のある「地域再興戦略」のＱＲコードに、政策立案のベースとしてのビックデータや集まった政策について、国そして地域にどうアクションを起こしていくかについてまとめてあります。ご覧になって活用されるといいのではないのでしょうか。政策における力点としては、「ＤＭＯ」「ＣＣＲＣ」「社会インパクト投資」をあげ、国や地域との政策対話をすすめると共に、この考え方を公開討論会に活かし、政策本位の政治選択にいかすことで住民自治の機運を高めていくことが重要だということですね。相川さんは「真の地域の自立自活」どうお考えになりますか。</p> <p>【相川氏】</p> <p>地方創生の主役は国ではなく、地方であると思います。それも自治体でなく一人ひとりの住民です。地域主導の政策と住民自治に転換することが地方創生の第一歩です。そのためには、住民が自らの地域を知り、強みと弱みを徹底的に洗い出し、戦略を立てることが必要です。それぞれの地域オリジナルの戦略を作り実行していくことが必要です。それらの戦略を達成するためには、住民の「知恵者」「世話役」「リーダ」が不可欠であり、必要な人的ネットワークを内外から集め、補完しあうことも大切です。自力で行う事は、他社の力を借りるなという事でなく、協力することが必要です。そして最後に、世代間の</p>	<p>地域再興戦略紹介</p> <p>「ＤＭＯ」「ＣＣＲＣ」「社会インパクト投資」</p>
--	--	--	--	---

				<p>バトンタッチをスムーズに行い、持続的な発展を行える仕組みと作っていかねばならないと思います。</p> <p>【木下氏】</p> <p>そうですね。そこにしかないもの、そこに行かなければ体験できないオンリーワンの体験。そのような感動体験を味わうことができるまちは、国や行政のみでつくり上げたものではなく、民間が率先して動いている活気あるまちであると思います。そしてオンリーワンこそがナンバーワンにつながります。自分たちが住むまちの独自の魅力を活かしたまちづくり、それがナンバーワンのまちづくりなのです。市民先導のまちづくりとナンバーワン戦略。本日のフォーラムでこの重要性を認識していただけたのではないのでしょうか。本日ご参加された皆様が各地域に戻られましたら、是非地元の皆様へ本日感じたことを伝播してください。地域の未来を切り拓くのは自分たちであり、私たちが率先して行動することでこそ地域が再興されるのです。私たちが先頭に立って地域を再興しましょう！</p> <p>相川さん、本日はありがとうございました。</p> <p>【相川氏】</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>【司会】</p> <p>相川様、木下様、本日はありがとうございました。相川様、木下様をご降壇されます。今一度盛大な拍手でお見送りください。(相川氏、木下氏降壇)</p>	
14:00	14:10	10	WEBアンケート回答へのお願い	<p>【司会】</p> <p>皆様本日は「地域再興フォーラム」～地域再興戦略2020 ナンバーワンを目指して～にご参加いただきまして誠にありがとうございました。</p> <p>本フォーラムではWEBアンケートを実施致します。お手元にお配りした次第に掲載がございます、QRコードをスマートフォンで読み取っていただき、WEBアンケートへのご回答をお願いいたします。引き続き日本再興フォーラムへのご参加を宜しくお願い致します。</p>	